口和町人権楽習会

口和町教育委員会
（現　庄原市教育委員会）
広島県庄原市教育委員会生涯学習課口和生涯学習係
TEL 0824-87-2115

研 座 演 シ 資 映 他 体 ワ

実施年月日 実績等	向泉分館　平成16年11月13日（土）　参加者:12人 永田分館　平成16年11月14日（日）　参加者: 5 人 湯木分館　平成16年11月14日（日）　参加者:12人 宮内分館　平成16年12月19日（日）　参加者:10人 大月分館　平成16年12月19日（日）　参加者:12人
主催（共催）	口和町教育委員会
開催場所	町内5分館
対　　象	町民（地区住民、分館長、絵画クラブ、小中学生）
人権課題	人権全般

事業の目的

口和町では、24年にわたり、映画・冊子等を用いたり、議論などして、同和問題学習会を小集落単位で実施してきた。また、年に一度、人権問題夏季講座として講演会を開催してきた。しかし、参加者が少なく、率直な意見が出にくいという問題があった。また、長期間継続して行ってきたことで、町民の人権や差別に対する意識は高まってきたが、つきあいで参加するなど、参加者の固定化が見られ、マンネリ化してきていたのが実情だった。

このような状況を打開するため、そして、受講者が思考、発言、振り返りを行う参加体験型（ワークショップ）を先駆的・モデル的に人権学習で取り入れるために、住民参加型の新しい人権学習のプログラムを導入し、楽習会を開催した。受け身の講習会とは違って、自らが考え、発言することで、記憶にしっかりと残る学習会を目指した。

さらに、楽習会で作成したカルタに、小中学生が色付けをしたり、カルタを地域学習や研修会のみならず、学校でも使用したりするなど、社会教育と学校教育の連携も目的とした。

事業概要

各自で標語作成

人権教育とは、人と人とのつながりを考えることから始まる。自分が心を閉ざしていたり、人をねたんだり、悪口を言ったりと後ろ向きな思考になっている時には、人を差別したり、陥れたりするようになる。つまり、幸福感や満足感を抱きながら、笑顔で前向きに行動していれば、差別は起こりにくいという考えのもと、講話や参加体験型の学習を行った。講師兼コーディネーターには、人間幸学研究所長の和田芳治さんを迎えた。

口和町人権楽習会プログラムの展開

①地域学習会

○ 元気の出る話（講師）
○ 元気の出る標語づくり（参加者各自）
○ 標語の合体、発表（グループで討議・作成・発表）

作成した標語を発表

○ 標語でつくる人権（講師によるまとめ）
○ 楽習の感想（住民）

②研修

○ 社会教育委員と講師によって、5地域で作成した標語の中から50音カルタに使用するものを選考

③学校等との連携

○ 標語への絵づけ・カルタの作成（小・中学校、絵画クラブ）

④学社連携

○ 標語カルタのお披露目（小地域サロンなど高齢者の寄り合い所や学校での総合学習を利用）

特色・工夫した点

ピラミッド型に標語を並べるグループワークシートなど、コーディネーターが独自に開発した教材を使用し、コーディネーターの得意分野である俳句の要素も盛り込むなど、コーディネーターの特性を最大限に活用し、参加者が親しみやすく、短時間で終了できるようなプログラム作りに努めた。

実施結果

参加者の反応・事業の反響等

口和町で初となる参加型の学習プログラムの開発であり、しかも、担当職員が十分に研修を受けていなかったこともあり、カルタのお披露目まで問題なくプログラムが進むのだろうか、講演を聞くという受け身の研修に慣れている参加者から発言は出るのだろうかと不安があった。しかし、参加者は体験型学習に自主的に取り組み、指導者育成の良い機会となった。

作成した標語を基にしたカルタ作りにおいて、学校、社会教育が連携し、幅広い年齢層の住民同士が触れ合うこととなった。様々な経歴を持つ人々の協力のもとにできあがった成果品の活用が、今後の事業の継続・発展につながると思われる。

参加者は活動を通して学ぶことにより、充足感や満足感を得られた。また、グループワークを行うことで、誰もが発言し考えることができた。

グループワークでは、適切な段階を踏んだ手順が示されていたため、初めての人も違和感なく参加することができた。

●参加者の感想

○ありがとうを返していきたい
○ありがとうについての学習がよかった（普段から自分を支えてくれている足だから）足の裏にもありがとうを言ってあげようと思う
○人権教育は堅い、暗いというイメージを持っていたが、楽習会は楽しかった
○今日一日笑顔で過ごせた。明日からもこの笑顔で過ごしていきたい
○従来の聞くだけの学習会と違って、頭を使って疲れたが、気持ち良かった

反省点・今後の課題

多くの参加者を集めるためにも、参加型体験学習の楽しさが伝わる広報を考える必要がある。

今後、体験型学習会を継続していくためには、今回の楽習会で作成したカルタをいかに効果的に使用するか、どのような場所で使用していくのが好ましいか、考えていく必要がある。

完成した標語カルタ